

平成 26 年 11 月 17 日

議会報告会報告書

議会広報広聴特別委員会委員長 松野 豊 様

議会報告会 2 班

班長 森 亮二

植田 和子

斉藤 真理

阿部 治正

西川 誠之

中川 弘

私の班は議会報告会を開催し、その概要は下記のとおりでしたので、ご報告します。

記

- 1 日時 平成 26 年 11 月 15 日（土）
午前 9 時 30 分～午前 11 時 30 分
- 2 場所 江戸川台福社会館
- 3 欠席議員 無し
- 4 参加者数 13 人
- 5 報告内容
公立小中学校間における施設格差の是正について
地域支え合い活動推進条例 その後の進展について

6 意見交換内容

市民（江戸川台東） 学校の施設の格差是正がテーマだが、大きな学校の中での教育の中身、どう発達し成長していくのか、併設校で落ち着いて学習できるのか、年代や発達段階が違う子どもの配慮など、どのような議論がされているのか。

議員：教育福祉委員会では、併設校の施設面、事業費、古い学校との施設間格差是正などの議論を中心に行ってきた。一貫教育の問題は、一般質問や委員会の質疑の中で、施設のハード面の問題、子どもの体格や発達段階の違いの問題、教育効果は上がっているという議論、いやそのことは十分に実証されてはいない等々の議論が行われてきた。併設校で行われる一貫教育の問題については、今後丁寧な議論をしていく必要がある。

議員：同じスタイルをとっている小山小学校の視察をしたが、オープンな教室の中でも落ち着いて集中した学習を行っていた。中一ギャップの解消を期待する面もある。部活の心配、運動の利点などの議論もあるが、全国的には取り組んでいる学校もあり、流山では初めての経験で、良い面、問題点などを検討しながら、モデルケースとして考えていきたい。

議員：一貫教育はすべての学校で行うが、小中が離れている学校とそうでない学校の間では教育の質に差が出てくるので、市は併設校で一貫教育を前面に出すわけにいかず、併設を強調している。当局は格差を教員の質で埋めるというが、教員に対して大変な負担を強いることになる。学区の問題で今の学校に通いたいという子どももいる。そういう中で、議会としては物理面の格差の解消も重要だと考えている。

市民（東深井）：小山小学校と併設校は街づくりの見通しを十分に立てたうえでやってきたのか疑問。併設校に入れる子どもも入れない子どももあり、古い学校に通う子どもはどうなるのか。給食費への影響など保護者の負担増とならないか。教育者のレベルは熟しているのか。

20代の教員を増やして虐待や道德問題などに対応できない教師が増えているとも聞く。防犯面は大丈夫か。こうしたことを議員は調査しているのか。

議員：私は街づくり全体の問題はまだ見切れていないが、日々の市民の声を聞き、おかしいところはおかしいという立場で活動をしている。色々と教えて頂きたい。

議員：小山小は移転後は1学年に1クラス増やし3クラスで建て替えた。議会で大丈夫かという議論があったが、2小学校1中学校の体制となるので大丈夫だと当局は主張した。小山小の増設必要議論が出た時、併設校が50クラスと決まっていたので、議会からまた足りなくなるのではないかという議論が起きた。計画通りにいかないというのは分かっているが、小山小でのミスに、併設校でもミスが起きれば、とめられなかった議会にも責任はある。保護者の費用増は給食費には反映しないだろう。莫大な事業費、割賦販売は併設校の地域だけでなく流山市全体の市民での負担。教員の質は20年前と比べるとレベルアップしており、質の要求には限りがないが、更なるレベルアップに努めていく。セキュリティー面の強化は、小山小ではそれで使いにくくなったという声なども踏まえて、今回の施設に活かしていると思う。

議員：当局に校庭開放できないかと質問をしたが、安全対策上困難との答弁だった。防犯カメラは整っているだろうが、教員が見守るのは困難なので、授業や部活が終わったら帰りなさいという指導。学童の運営は指定管理者がやっているが、学校全体は見守れない。流山では今のところ極端なケースは発生していない。

地域支えあい活動推進条例

市民（南流山）：私は耳が聞こえない。地域支えあい条例では聴覚障害者1・2級に情報提供すると言うが、それでは他の聴覚障害者には災害の時情報が入ってこない。1・2級の者にだけでなく対象者を増やして

情報を流してほしい。議会報告会も、事前の申請に期限があることを知らなかったが、支援課にお願いして可能となった。聴覚障害者がいるいないにかかわらず、通訳がいるという体制を整えて欲しい。

議員：事前の申請の有る無しにかかわらず、参加したら通訳がいるという体制を整えて欲しいと言うことがお話のキモだと受けとめた。議会も当局も締め切り以内に申請があれば準備をするという段階にとどまっている。これが精一杯頑張った上でここにとどまっていると言うことが、聴覚障害者の思いへの認識が足りないためなのか、という問題だと思う。次の報告会から対応できるということは困難だが、教育福祉委員会はこの問題に対応すべき委員会なので、考えるきっかけを与えて頂いたと受けとめている。

市民（東初石）：併設校建設で校区変更に巻き込まれたマンションに住んでいる。自治会は加入希望者を募って60%が参加。若い世代を増やそうという市の施策の中、若い世代だからこそ関心を持とうと話合っており、地域支え合い条例にも参加していきたいと思っている。マンション自治会なので、お隣の事情が分からない。情報共有が必要だが、自治会長ひとりでやらなければならない実態がある。ハードルを取り除いていきたいが、この点での課題や進捗状況について議会ではどのような議論が進んでいるのか。

議員：私のマンションでは93%が自治会に参加。神社とお祭りやろうと自治会立ち上げた。自治会長は全員の名簿を持っており、班の名簿は班だけが持っている。自治会費徴収の時に名簿確認し、小学生以下の子ども数、家族の総人数、災害時に手助けをする家族いるか、丸だけがついている名簿を渡した。周辺の戸建住民や自治会との連携を追求した。いずれにせよ、自治会を継続することが力になる。自治会の仕事を減らしていったら会員が減ったということもある。自治会の存在価値を認めてもらい、理事会との役割分担をどうするかも重要だと思う。

市民：非自治会員だけどサポートが必要な人の情報は、管理組合は把握している。管理組合が支え合い活動に取り組むことは可能か。

議員：私のマンションでは管理組合は建物の管理に専念していた。要は連携をしつつ、どう役割分担をするかだと思う。戸建てだとゴミ出し問題ひとつとっても自治会の役割があるが、新しいマンションではゴミ出しの仕組みも街路灯も既に整えられている。

市民（東深井）：防火水槽の上に自転車を置いているケースが増えている。注意すると今度は歩道に置く。けが人が出てからでは遅いし、消防活動にも差し障りがあるが、シルバーは手を触れることができない。縦割りの弊害だ。議員を含め取り組んでほしい。人の安全・財産を守るうえで重要なこと。

議員：反省会の中で協議をしていきたい。

7 参加者から議会への要望

防災情報については、聴覚障害者1・2級の者にだけでなく対象者を増やして欲しい。議会報告会なども、締め切りありの事前申請ではなく、参加すれば通訳がいるという体制を整えて欲しい。

防火水槽の上に自転車を置いているケースが増えている。けが人が出てからでは遅いし、消防活動にも差し障りがある。人の安全・財産を守るうえで重要なことなので、行政、議員ともに取り組んで欲しい。

8 所感

森亮二 今期最後の報告会を終えた感想は、参加人数の多寡を問わず議会組織として定期的に市民の方々と向き合うことの意義の大きさである。これは議員個人で向き合うよりも政策立案にも繋げやすい。その点で委員会による班構成は継続すべきものと感じている。

中川弘 現状では市民の皆さんには併設校との施設格差が理解されていないのか市民の参加が少なかったのは残念であったが、議会としての情報発信力不足を痛感させられた。その反面、落ち着いた意見交換が出来たことは有意義であったと思う。

西川せいし 一般市民の参加が少ない件、今回は周辺のPTAにもご案内を差し上げたはずなのにゼロ。昨日午後の東部地区の報告会も似たような状況。PR/周知活動の限界を感じている。我々の会では建設的な意見交換ができたと自負している。

植田和子 小中学校間格差についての参加者がゼロだった。保護者は自分の子が通っている学校しかみる機会が滅多にないため比べるという発想はないかもしれない。(私がそうだった。)このテーマについて保護者の声をもっと聞きたかったが残念。テーマ設定の課題が残った。

斉藤真理 参加者の方が少なめでしたが、逆に丁寧な意見交換ができたと思います。新市街地の新しいマンションの自治会役員の方や、聴覚障害の方など、地域支え合い活動に関する貴重なご意見を頂き、今後の議会活動に反映させていきたいと思いません。

阿部治正 開発が進む地域のマンションに住む方、聴覚障がいを持った方、日頃から市政に問題提起をされている方などの参加の下、中身の濃い意見交換が出来た。近隣市から多数の議員の参加があったことも、流山の議会報告会の持つ意義を示すものと受け止めたい。